

研修Ⅰ A さぬき・東かがわ 学びを実生活に生かせる国語科学習の在り方

—単元を貫く言語活動の工夫—（１年）

「登場人物の気持ちや行動を読み取り，音読劇に生かそう『かいがら』（東京書籍 1年）

「めざせ！話し方名人，聞き方名人！『すきなもののクイズをしよう』（東京書籍 1年）

1 提案の概要

(1) 主張点

① 単元を貫く言語活動の設定

- ア 「読む」「書く」「話す・聞く」を関連させた言語活動を軸にした単元構成の工夫
- イ 学びを生かす言語活動

教える側：系統化・焦点化による知識・技能の定着

学ぶ側：目的意識・相手意識を持たせ，成就感・有用感を感じさせることにより，思考力・判断力・表現力を育成

② 課題設定の方法

児童の実態把握→付けたい力を確定→**言語活動の確定**←必要な能力のリストアップ
ゴールを明確に（第3次を想定してから第2次を明らかに）

(2) 具体的な実践

① 相手意識を明確にした学習指導の工夫

- ア 幼稚園児に音読劇を紹介
- イ 交流校の友だちとクイズ大会

② 思考を深めるための「見える化」

- ア 表情の絵シールによって登場人物の感情を「見える化」
- イ 児童と考えたヒントの掲示で，思考の広がりや深まり
- ウ 質問の仕方をよく考えてやりとりしているペアを取り出し意欲化

③ 表現力を高めるためのモデル化

- ア 教師の表現力豊かな範読でモデル化
- イ 話し方・聞き方のよいモデルと悪いモデルを教師が演じ，DVDで繰り返し視聴できるようにすることで，ゴールを明確に提示
- ウ 「とうくん」「きくちゃん」のキャラクターを設定し，日常的に合言葉として使用

(3) 意欲の高揚を図る評価の工夫

- ① 評価基準を明確にした教師の評価
- ② うれしい顔と困った顔の数で，見えない感情を視覚化
- ③ 評価基準を明確にし，シールにより「見える化」した児童による相互評価

2 成果

- 相手を意識して学習に取り組むことにより，意識の継続や意欲の向上が見られた。
- 学習活動の中に交流を組み入れることで，グループやペアの友だちから刺激を受け，読む力や話す・聞く力に伸びが見られた。
- 交流を重ねることで，思考を働かせて臨機応変に答えたり相手の表情を見ながらヒントを出したりするなど，コミュニケーション力が向上した。
- 他教科と関連させることで，単元を貫く言語活動の時間の確保と理解の深まりにつながった。繰り返しにより，実生活にもつなぐことができた。

3 課題

- 評価を生かした，個に応じた支援のあり方
- 1年生としての相互評価のあり方

